



2



3

1 施設の敷地面積は6180㎡。広大な敷地内に犬と猫の保護に必要な設備がそろえられている。2 猫の譲渡スペース。このような小部屋にも、しっかりと光が差し込むように小窓が設置されている。3 広々とした屋外の運動スペースも完備され、犬の健康面に配慮。6棟の建物の内、2棟が犬専用の小屋になっており、犬と猫の生活の場が完全に分けられているのも設計のポイント。4 犬の譲渡スペース。譲渡希望者はここで家族となる犬に出会える。



4



1

AUSTRALIA Blacktown Animal Rehoming Centre

自然と調和した建築で
犬と猫、そして人も明るい気持ちに

オーストラリアのシドニー近郊の街、ブラックタウン。昨年この街に動物保護施設「ブラックタウン アニマル リホーミング センター」がオープンした。「Rehoming(リホーミング)」という名の通り、手放されたペットや迷子動物の譲渡を促進する施設だ。南半球で最大規模を誇り、6180㎡の広大な敷地に約380匹の犬と猫が一時的に暮らす。

設計はオーストラリアを拠点とする建築事務所、サム・クロフォード アーキテツツが担当した。建物をデザインするに当たり、自然とのつながりが最も重要だと考え、犬・猫の部屋には外の景色が見られるようにガラス窓を多く設置。さらに猫の遊び場にはポップな色や温かみのある木材を多用し、人が多く集まるエントランスは天井を高くしてガラス張りにした。その結果、施設全体が開放的で明るい雰囲気になった。動物が心身ともに健康的に過ごせるというだけでなく、働

くスタッフやペットを迎える人にもポジティブな感情をもたらしてくれるだろう。

多目的スペースでは犬や猫が家庭の環境になじむための訓練や、譲渡を希望する人向けの教育プログラムを実施している。飼主と動物のコミュニケーションをしっかりと支援することで、一度引き取られた動物たちが二度と手放されないように、ペット定着率の最大化を目指しているのだ。

設計を手がけたサム・クロフォードはこう語る。「オーストラリアではポストコロナ時代に入り、迷子動物や保護施設に預けられる犬や猫が増えています。そんな中で、私たちのデザインが犬や猫の譲渡の機会を最大限に高めてくれることを願い、そして貢献できることをうれしく思っています」

日本では寂しい印象にもある動物保護施設。デザインが一つの支えとなり、社会問題の解決に向かって進み始めている。

ブラックタウン アニマル リホーミング センター / 20 Owen Street, Glendenning 2761, Australia www.thebarc.com.au

Photos BRETT BOARDMAN(p.80-81)



施設は全6つの棟で構成され、譲渡を希望する人々がはじめて訪れるのがこの受付棟。大きな窓から明るい光が差し込む。猫たちのためのクライミングジムも設置されている。

大きな屋根が特徴の受付棟。左にあるカラフルな柵が「バードスクリーン」。100mにわたって連なり棟同士をつなぐ。野鳥の色にちなんだ色で、温かみをもたらすために設置。

世界で広がる 犬と猫のためのデザイン

ペットを家族として迎え入れる際の選択肢として、広がりを見せているのが保護犬や保護猫。譲渡のための促す施設で、デザインの果たす役割が重

Photos TOSHIIHIDE KAJIHARA(p.82-83)

